

授業科目名	【G】 教養演習Ⅰ・Ⅱ	区分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
科目区分	基本科目	選択必修				
授業形態	対面授業					
担当形態	単独					
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	メディアリテラシー基礎編	担当者	見崎 浩一			
授業概要	【概要】 情報が溢れる現代社会、デジタル社会では信頼できる情報を見極める力、メディアリテラシーがますます重要になっています。メディアリテラシーとは、様々なメディアや個人等から発信される情報を批判的に思考(クリティカルシンキング)し、正しい判断を下して活用する能力です。この授業では、メディアリテラシー能力を涵養する基盤として新聞記事、ニュースを中心に取り上げます。新聞やその他のメディアを通じて、情報の信頼性を評価し、的確に活用するスキルを身につけます。授業ではまた、生成AIを利用した文書生成や画像生成等、最新の技術や問題にも焦点を当てます。グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、自ら考え、意見をまとめ、発信する力も育みます。興味を持ち、積極的に参加し、自己成長と社会への貢献を目指しましょう。					
	【実務経験を活かした授業】 さまざまな報道現場を経験した元新聞記者の教員が、情報社会で必要な信頼性のある情報を見極める力を学生たちと考え、能力向上を目指します。新聞に掲載されたニュースや企画記事、情報などを取り上げながら、メディアリテラシーの重要性を説き、学生たちがデジタル時代の情報を的確に評価し、利用するスキルを身につけます。					
	【到達目標】 ① 情報を適切に収集し、その信頼性や正確性を評価する能力を身につける。 ② ネット検索やAIを活用した文書生成技術等について理解し、その可能性やリスクを認識する。 ③ フェイクニュースや偽情報に接しても情報源や信頼性を確かめる等のファクトチェックの手法を習得する。 ④ 新聞や他のメディアの記事を比較し、客観的な視点から情報を分析する能力を養う。 ⑤ 識者のオピニオンや企画連載などを通じて、複数の視点から情報を理解し、自らの意見を形成することができる。					
履修条件	「情報リテラシー」の単位を修得済みであることが望ましい。					
アクティブラーニングの方法	【－】 事前学習型	【－】 反転授業	【－】 調査学習	【－】 フィールドワーク		
	【－】 双方向アンケート	【○】 グループワーク	【－】 対話・議論型授業	【－】 ロールプレイ		
	【○】 プレゼンテーション	【－】 模擬授業	【－】 PBL	【－】 その他		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	－ (当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)				
他科目との関連性	「情報リテラシー」で扱う内容は修得済みであることを前提として授業を実施します。					
教科書	特にありません。					
参考書	坂本 旬／山脇 岳志 (2021年)『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社 外岡 秀俊 (2006年)『情報のさばき方 新部記者の実戦ヒント』朝日新書 池上 彰 (2019年)『考える力と情報力が身につく 新聞の読み方』祥伝社					
評価方法	各週の振り返りと学習の成果物(30%)、演習への参加度合い(20%)、最終課題の発表と作成した最終成果物(50%)					
フィードバック方法	Google Classroomを使用し、提出された課題についてのコメント等のフィードバックをします。					
評価基準	授業内容についてよく理解していると判断した学生にはその程度に応じてSまたはA、一部不十分な箇所がある学生についてはBまたはCとします。授業内容への理解自体が不十分な学生については、その程度に応じてDまたはEとします。全欠席など評価不能の場合にはFとします。					

授業 科目名	【G】 教養演習Ⅰ・Ⅱ	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
		選択必修				
授業内容	<p>「教養演習Ⅰ」では、インターネットによる「情報収集」について、これまで多くの人が活用していたGoogle検索における便利な方法等を最初に振り返ります。「ググる」が一般的だったネット検索の世界に生成AIが登場し、その急速な進化によってネット検索が大きく変わるかもしれない状況、また生成AIによる偽情報等に対するファクトチェック等の「情報分析」についてもPCを操作しながら考えます。</p> <p>「教養演習Ⅱ」では、「情報評価」として新聞を中心としたニュース記事、オピニオン記事を題材に、メディアリテラシー能力向上に向けた実践事例を演習として扱います。</p> <p>〈教養演習Ⅰ〉 第1回 ガイダンス、イントロダクション 情報収集と情報分析、情報評価 第2回 ネット検索 第3回 Google高度な検索 第4回 Google検索の応用 第5回 生成AIによる検索 第6回 文書生成AI(ChatGPT、Copilot、Geminiなど) 第7回 文書生成AI 第8回 文書生成AI 第9回 画像・音声・動画の各生成AI 第10回 偽情報、フェイクニュースとは 第11回 ファクトチェック① 第12回 ファクトチェック② 第13回 ファクトチェック③ 第14回 ファクトチェックまとめ 第15回 ファクトチェックまとめ(発表)</p> <p>〈教養演習Ⅱ〉 第1回 イントロダクション、情報評価 第2回 ニュース記事読み比べ① 第3回 ニュース記事読み比べ② 第4回 ニュース記事読み比べ③ 第5回 企画連載から考える① 第6回 企画連載から考える② 第7回 企画連載から考える③ 第8回 識者オピニオンから考える① 第9回 識者オピニオンから考える② 第10回 識者オピニオンから考える③ 第11回 テレビニュース見比べ① 第12回 テレビニュース見比べ② 第13回 テレビニュース見比べ③ 第14回 ミニプロジェクトまとめ 第15回 ミニプロジェクトまとめ(発表)</p>					
予習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の1面に掲載されている記事を毎日読むこと。あるいはNHKのニュース(19時か21時)を毎日視聴すること。あるいはインターネットのニュース(Yahoo!ニュース)に1日10分以上、毎日接すること。 ・授業テーマに関する資料や文献を調べて、考えをまとめること。 ・授業ごとの予習時間は90分程度を目安としてください。 					
復習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げたニュース記事を要約し、その内容や主題を把握する。要約した記事に対して自身の意見や考察を加えることも求めます。 ・日常生活で遭遇するニュースや情報に対して、批判的あるいは吟味的に考える習慣を身につけること。 ・授業で行ったグループディスカッションの内容や議論を振り返り、自身の意見や考えを整理すること。 ・授業事の復習時間は120分程度を目安としてください。 					
その他	<p>GoogleClassroomやGoogleフォーム等を活用します。</p> <p>社会環境の変化やテクノロジーの進化により、シラバス内容の入れ替え等の可能性があります。その場合は事前に告知します。</p> <p>※Gカリ:【Ⅰは選択必修(A)・Ⅱは選択必修(B)】</p>					